

伊東市教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 令和7年3月27日（木曜日）
午後2時30分～午後4時55分
- 2 場 所 伊東市役所高層棟5階中会議室
- 3 出席者 教育長 高橋 雄幸 委員 遠山 泰範
委員 辻 恵 委員 秋山 佳輝
委員 北岡 ゆうこ
- 4 参 与 教育部長 浜野 義則 次長兼教育総務課長 杉山 宏生
教育指導課長 森田 まり 幼児教育課長 鈴木 慎一
生涯学習課長 山下 匡弘
- 5 事務局 教育総務課課長補佐 二宮 悠 掬川 宗範
主幹 藤原 真紀
- 6 会議の経過

高橋教育長：ただ今から伊東市教育委員会3月定例会を開会する。議事に先立ち事務局から報告を行う。

（事務局から出欠報告及び資料確認）

高橋教育長：それでは議事に入る。始めに、令和6年12月定例会会議録の確認を行う。修正点等はあるか。

（意見なし）

高橋教育長：会議録を原案どおり承認してよろしいか。

（異議なし）

高橋教育長：承認が得られたので、令和6年12月定例会会議録は原案どおり決定する。会議録の署名は遠山委員にお願いする。次に、教育長報告を行う。3月定例会教育長報告事項について、主な内容のみ説明を行う。

2月21日 市議会本会議

25日 市教育研究奨励賞授与式

26日 市議会本会議（議案説明）

28日 教頭会、区長委嘱状交付式

- 3月 1日 県立伊豆伊東高校定時制卒業式
- 3日 市長答弁調整
- 4日 市議会本会議（大綱質疑）、市職員組合要望
- 6日 市議会本会議（大綱質疑）、水泳国際・全国大会出場表敬訪問
- 7日 市議会本会議（一般質問）、校長会（人事異動内々示）
- 8日 中央区宇佐美学園修了式
- 10日 市議会本会議（一般質問）
- 11日 市議会本会議（一般質問）
- 12日 市議会本会議（議案審議）
- 13日 市議会福祉文教委員会
- 14日 東部特別支援学校伊東分校卒業式、こども新聞寄贈、
校長会（人事異動内示）
- 17日 東部社会教育振興協議会理事会
- 18日 池幼稚園修了式
- 19日 卒業式（宇佐美中、宇佐美小）
- 21日 市職員人事異動内示、伊東市防災会議
- 23日 日本マウンテンバイクカップ表彰式
- 24日 市議会本会議、土地利用対策委員会、人事異動新採内示（保・
幼）、マリンタウンより寄贈
- 25日 政策会議、宇佐美学園園長来庁
- 26日 いじめ調査委員会
- 27日 教育委員会定例会、宇佐美保育園訪問

以上で報告を終わるが、何か意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：それでは各委員からの報告をお願いします。

委員：伊東小学校と南中学校の卒業式に行かせていただいた。午前中に中学校だったが、すごく落ち着いた雰囲気、とてもいい卒業式だった。いつから変わったのか記憶にないが、檀上へ一人一人上がらず、クラスの代表生徒が授与

される形だった。時間の部分を考えると仕方ないと思うが、今回はそういう形で驚いた。伊東小学校も落ち着いた雰囲気で、最後に歌を歌っていて、みんなすごくいい顔をしていた印象がある。とても素晴らしい雰囲気だった。

委員：八幡野小学校と対島中学校の卒業式に出席し、以前の会議で話題に出た袴とはこのことかと思い、袴を履いている小学6年生の女の子が10人ぐらいいた。中学校では、女の子で学ランを着ていた。他にも、素朴に見える女の子が、ロングスカートを履いていて、すごく印象に残った。小学校も中学校も合唱をやるが、小学生の方が大きい声で歌っていたが、中学生になると大人になるのか、少し声が小さかったので、最後なのでしっかり歌えばいいのになと思いながら聞いていた。

委員：門野中学校と大池小学校の卒業式に出席させていただいた。どの行事に出ても思うが、子供が少ないことが一番の感想である。門野中も78名、大池小も同じぐらいの人数だった。中学校の卒業式は本当に生徒が落ち着いて式に臨んでいた。まだ主に女子生徒でマスクをしている生徒がいた。マスクを取らなくてもいいのだが、コロナ禍が取れないようにさせてしまったのかなと思った。女子生徒で2名ほど、涙がこらえきれなかったのか、すごく泣かれていて、小学校の時にコロナを経験して、この3年間でいい思い出ができていれば良いなと思った。小学校の方は、保護者のマナーが気になった。一番前の席に座っていたので目についたが、式の最中ずっとガムを噛んでいる。それと、兄弟関係で一緒に保護者席に参加されていた中学生か高校生が携帯をいじっていて母親とも話している。校長先生やPTA会長が話をされていてもである。そもそも大人がこういうマナーやモラルが守れないと、子供にも言えないと思った。そこがすごく残念であった。服装については、大池小学校で男子が10名、女子が5名、袴であった。気になったのがやはり着崩れである。袴が着崩れてしてつまずいたり、証書を受け取る時に少し気になった。合唱がとても素晴らしい卒業式だった。

委員：所用で卒業式に出ていないので、入学式はしっかり感想を述べさせていただく。

高橋教育長：次に、議題に入る。始めに議決事項、教議第１７号「伊東市学校給食センターにおける学校給食費の管理に関する規則の一部を改正する規則について」を議題とする。

（杉山次長兼教育総務課長から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：それでは、この件について確認する。教議第１７号「伊東市学校給食センターにおける学校給食費の管理に関する規則の一部を改正する規則について」は、原案どおり承認してよろしいか。

（異議なし）

高橋教育長：委員の皆様から承認が得られたので、教議第１７号については原案どおり決定した。次に、教議第１８号「令和７年度学校運営協議会委員推薦書について」を議題とする。

（森田教育指導課長から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。載っていない学校は、どういう対応をされたか。

森田教育指導課長：学校運営協議会（コミュニティースクール）の設置について、各学校毎に検討されるよう研修の機会を設けている。

高橋教育長：承知した。それでは、この件について確認する。教議第１８号「令和７年度学校運営協議会委員推薦書について」は、原案どおり承認してよろしいか。

（異議なし）

高橋教育長：委員の皆様から承認が得られたので、教議第１８号については原案どおり決定した。次に、教議第１９号「伊東市立幼稚園における給食費の管理に関する規則の一部を改正する規則について」を議題とする。

（鈴木幼児教育課長から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：それでは、この件について確認する。教議第19号「伊東市立幼稚園における給食費の管理に関する規則の一部を改正する規則について」は、原案どおり承認してよろしいか。

(異議なし)

高橋教育長：委員の皆様から承認が得られたので、教議第19号については原案どおり決定した。次に、報告事項、教報第22号「令和7年度小・中学校教職員(市職員)及び幼稚園・保育園職員の人事異動について」を議題とする。

(森田教育指導課長、鈴木幼児教育課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：次に、教報第23号「令和7年度小・中学校教職員の人事異動について」を議題とする。

(森田教育指導課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：次に、教報第24号「伊東市立幼稚園の貸し出しについて」を議題とする。

(鈴木幼児教育課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：休園している幼稚園については、貸出しと同時に施設の管理も幼児教育課の方でしているが、自分の方にあった非常にいい情報として、今まで草が生え放題で荒れていたが、今やっけていただいている業者が非常に丁寧にやってくれて、本当に使いやすいと聞いた。良かったと思っている。

鈴木幼児教育課長：令和5年度までは、回数や内容まで指定ができない人材の派遣だったので、ここまでやってほしいというやりとりが少し難しい事情があった。そこから切り替えたのが、障害施設のクープである。各休園施設の園庭や園舎の窓の清掃を依頼している。施設の方も作業の一環ということで、市内

を回りながら本当に丁寧にやっただけでいる。報告を写真でいただくが、本当に見違えるほど綺麗になっており、従事している方々も日に日に作業に慣れてきている。そういう声を初めて聞いたので、色々試みるものだと思っている。

高橋教育長：次に、教報第25号「伊東市立図書館の特別開館について」を議題とする。

（山下生涯学習課長から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：以上で報告事項を終了する。次に、その他、教議（1）「伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針について」を議題とする。

（杉山次長兼教育総務課長から資料に沿って説明）

高橋教育長：1点目は市内各地区の具体的方策について、2点目に池小学校の小規模特認校について、3点目に旧城ヶ崎分校の取得について意見をいただきたい。最後に、宇佐美地区と対島地区の統合準備が同時並行で、1年違いで進んでいく形になる。それについても意見を伺いたい。

委員：大事な問題で、初めて関わることなので、参考になる情報を用意いただいてとてもありがたい。全体的な考え方として、教育問題懇話会の議事録を読ませていただくと、地域のことを考えて意見を様々出してくださっている。一番大きく考えた方がいいと思うことが、統合していくのに当たって、多くの子供たちが一緒に学ぶことである。また、クラスが増えることによって先生方も増えて、教育環境を充実していく反面、各地域から学校がなくなっていくことにもなる。その地域のコミュニティを重視するのか、ある程度まとまって子供たちが学んでいくことに重点をおくのか、これは全く逆の話になる。どちらにかじを切っていくのかを、大きい方向性として決めて、そこに向かって進んでいくしかないことが一つ。あとは、人数的にこの推移の予想を見ていくと、最終的にはものすごく少なくなって、中学校1校、小学校1校でも、その場所的

に、皆収まってしまうのではないかという意見もあった。極端な意見だが、そこに向かってどういう段階で一気にまとめてしまうのかだが、例えばどれぐらいのタイミングで取るのか、あるいは取る必要があるのか。そのことを、考えて進んでいかなければいけないと思った。

委員：大人の目線と子供の目線は全く違うので、まずどちらに重点をおくのかということもあると思う。一緒になることはいいことだと思っている。運営をする上で必要なことだと思う。一方で、送迎は両親や子供が通うのに、今までより大変になったら、行くのが面倒になったり、朝起きられないなど、そういう傾向になりかねないということもある。逆にプラス面で考えれば、子供が今までと違う環境で、強くなるトレーニングにもなる。小学校のうちからしなくてもと言うかもしれないが、他の子供や大人の方とのコミュニケーション作りを、自然とトレーニングするような前向きな考えになっていけば、学校が一緒になっていくのも、前向きに考えられるのではないかとと思っている。自分は大勢の中で学校に通った経験しかないので、大勢の中の 1 人だとあまり目立たないが、あまり学校に来ない、元気がないなど、少ないと何かあるとすぐ目立ってしまう。大勢だと大勢なりの苦勞があると思うが、そういうポジティブな考えを持っていけば統合するのもいいと思う。実際に通うのは子供なので、いい案や方法がないかと思う。

委員：懇話会の議事録を読ませてもらったが、想定以上に子どもが減っているから、学校を再編して統合することも致し方のないこととは分かっているが、括りにすることに重きを置いてはいけないと思っている。学校で教育を受けるのは大人ではなく子供であって、統合して大勢の人数でいいと思う子もいれば、それが苦手な子もいる。人数が少ない小規模だからこそ学校の良さがあることもある。富戸小学校や池小学校などの小規模の良さも残していかなくてはいけない。ただ統廃合するのではなく、支援をしなくてはいけない児童・生徒も増えてくると思うので、先々に生じる問題を洗い出してからでないと良くないと、正直個人的には思う。実際、今年の 3 月に伊東小学校を卒業した北中学区の児童で、「3 年生になった時に南中学校と統合されるならば、北中学校に行かな

いで最初から南中学校に行った方がいい」という子供や親がいた。仕方がないことだが、子供たちの気持ちや統合した時にどうなのかということも考えてあげたいと思う。生じる問題を細かいことから、先に洗い出した方がいいと思う。通学に関しても、心のケアの問題も大事だと思う。

委員：今の人口減少からすると、配置の適正化は仕方がないと思う。小中学校をある程度絞っていく。複式学級の件やクラス替えができるなど、色々な部分は学校生活において改善ができると思うが、子供の成長から考えると地域との繋がり、やはり大事だと思う。学校の数が減って、例えば何十年かすると、小中学校が伊東市内に1校ずつになる可能性も考え方としてはなくはない。そうすると、子供は北から南まで1か所に集まって、学校生活が賑やかにできると思うが、当然ながら親の考え方でいくと、どこに住む、どこのアパートを借りよう、どこに家を設けようと子供のことを中心に考える。子供の学校だけでなく、伊東市全体の人口比率や、そういったものにも影響が出てくると思う。例えば今、池に住んでいる家族がいて、池小学校に通っていた子がいつの日か通学先が旧城ヶ崎分校の跡地になる。そうになると、池から通うよりは、もう少し学校の近くにアパートを借り変えて住むなど、地域のコミュニティの部分で、学校の適正配置を行うことによって、地域に影響が出ることはあり得ると思う。子供の成長全体で見ると、学校の問題は大事だが、そういった部分にも影響が出ると思う。一方で、私も、荻の山奥からバスと徒歩で北中学校に通学していた。上の世代の人たちは、十足から冬は朝の暗いうちに、南中学校にかどの台を通っていたとそんな話も聞く。私も、通っている時はそういうものだと思って、違和感なく通っていた。実際、大人が子供の教育のために配慮して、色々なことをこれからしつらえることは大事な部分だと思う。あとは、今回後期方針が出て、ある程度、市民全般にオープンにされていくと思う。方向性が明確に示される時が来れば、これから子供を学校に通わせる家族は、それを踏まえて子供のことや、住まいのこと、もっと言えば仕事のことなど、家全体の今後のありようを考えることに繋がると思う。学校の適正配置は、そういうとこまで影響を及ぼすことを考えておきたいと思った。

高橋教育長：各委員それぞれの経験や、広い視点を持っていると強く感じた。

1 番について、反対の意見はあまりなかった。方向としては、概ねそういう形でいいが、課題はいくつかあることをしっかりと把握しなければならない。市長との話の中で、今のようなことを膨らましていただいて、意見があれば言うていただければと思う。1 点目について、教育問題懇話会の方針は、ここはどうしても反対だという感じではないと自分は感じたが、1 点目についてはそれでよろしいか。

(異議なし)

高橋教育長：2 点目の池小学校の小規模特認校についての意見を伺いたいと思う。現在池小学校については、小規模特認校で、市内どこからでも自由に来て構わないという学校で、そういう子供たちが全校児童のうち、3 分の 1 ぐらい実際にいる。色々な事情があつてという子や、田んぼの自然に触れたいと思いどうしても行きたいという子もいる。本当に独特な学校である。この学校をどうするかということについて、意見を伺いたいと思う。

委員：小規模特認校としての特色、具体的に池小学校として、子供たちに通常の授業以外でこんなことをしているなど、もし分かれば教えていただけたらと思う。

森田教育指導課長：1 番の特徴は稲作だと思う。池の田んぼをお借りして、池区の方々が様々な重機なども使いながら、子供と一緒に苗代を作るなど作業のところから取り組んでいただき、収穫後は一緒に調理して食べることも行っている。あとは、地域の方々が季節の池の産物などを子供に紹介してくださったり、行事には多くの方々が参加してくださったり、非常に地域との強い関わりを持って、様々な活動を進めている。

高橋教育長：他にはホタル合宿をすすめている。

委員：それを踏まえて、ぜひ継続するべきだと思う。先ほどの適正配置とある意味相反するかもしれないが、子供のために押さえておくべき大事なことであると思う。色々な事情のある子供たちにとっても伊東の学校教育にとっても、池地区は象徴的な場所であり、上皇陛下がお見えになった場所でもあり、農業

塾であり、地元の人たちのまさにコミュニティの繋がりをしっかり教育として押さえてあることは、ある意味1番優先して考えるべきだと思った。

委員：私も池小学校の今やっている取り組みは、継承していただきたい。実際に見させてもらったこともあるが、特に稲作に関しては、田んぼの土を触るなど、自然に触れ合うことは、特に小学生の時、幼少時はとても大事である。すごく地域の方たちが温かくて、子供たちに協力的で、色々なことをやっている。だから、池小学校に行きたいと言う親がいることも本当によく分かる。今やっている池小学校の取り組み、特認校としての特性は、子供の成長などのために継承していってもらいたいと思う。

委員：池小学校だけでなく、幼稚園や小学校は色々なものを吸収する時期だと思う。やはり子供にできるだけ色々なものに触れてもらったり、体験したり、出かけたりすると人生の選択肢が増えてくると思う。自分は意外とアウトドアだと思ったらインドアの方が得意など、自分で気付くこともたくさんある。子供にとって良いことは続けてもらいたい。色々な体験していく上で、これは危険だと感じ知識や経験の幅も広がると思う。池小学校だけではなく、伊東の子供に様々なことを体験してもらいたいが、やり方などを変えつつも、続けられる方向で考えていってもらえればと思った。

委員：小規模特認校でどの学区からも希望があれば通っていいということは、市内の家庭やこれから入学する方にどういう形で周知されているか。

森田教育指導課長：特に、積極的に入学前に案内することはしていない。それぞれの家庭での情報収集の中でということになる。

委員：統廃合していく中において、特性を生かしていけることや、色々な選択肢を持てることはすごく貴重だと思った。もし池小学校の形を残して継承していくのであれば、逆に今度、統廃合が進んで、学区が広がっていく中において、学校はここしかと思っていく中、1つの選択肢になっていく意味では、本当に大きな意味を持つと思う。その中で、大勢とは別に、少し落ち着いた環境の中で自然と触れ合ったり、その特性で自分を伸ばしていったりと、その両方の選択肢ができる意味でもとてもいいことだと思った。残していく方向がいいと考

えていた。

高橋教育長：非常に素晴らしい教育をしているので、ぜひこれを残して欲しいという意見がほとんどだったと思う。その中でもやはりコミュニティを大切に、今まで池小学校しかできないような体験を残すべきと、概ねそのような意見だと思うが、統合に際しても、やはりその良さを残してほしいということかと思う。

杉山次長兼教育総務課長：1点だけ、極端に子供が減ってくる中で、例えば1学年数人ずつとなり得る可能性もある。すごく極端に減っても良いものとはとするのか。今の状況だと、例えば5年6年は今の体制を維持できると思うが、その後は状況が見えてきた中で、1回考えるという考え方で良いということか。

委員：先ほど積極的に周知してなかったとのことだったので、どこかのタイミングで1回再来年度の入学前に、今年1年間かけて幼稚園や保育園、各市内の家庭にこういう選択肢があることを周知してみる。ニーズがどれぐらいあるのか、それでも今までどおりの入学者数に推移するのであれば、やはり先生方の配置などもあるので、継続が難しいかどうかを検証してみても良いのではと思う。

高橋教育長：素晴らしい学校だから、統合までは残してというのものもある。今言ったように、今年は入学生が4人だと思うが、例えば4年後になると、本当に2人や1人の入学になった時、学校としてどうかということもやはり考えなくてはいけない。また、その時点で小規模特認校と言ったように、啓発して広く広報して募集をすることも非常に必要だと思う。

委員：例えば学区の学校に通っていて、トラブルでうまくいかない、本当に学校の人間関係が難しい中で、引っ越しをするのではなく、同じ市内で違う環境の学校に通えと、そういった意味の選択肢にもなってくると思う。そういうところも少し広く知っていただくと、もしかしたらそれが大きな救いになる場合もあると思う。その辺も含めて、池小学校の特性を生かして、選択肢の幅広さという見通し、魅力にできると、今度メリットに変わっていくと思った。

高橋教育長：小規模特認校については、また総合教育会議でもご意見いただけ

たらと思う。次に、3点目の対島地区を小中一貫校とする際に、旧城ヶ崎分校の取得について、意見を伺いたいと思う。大規模改修しなければならない状況が、やはりあると思う。要するに、高校の建築物なので、水道の高さなど小学生仕様に変えないといけないこともある。校舎もかなり古い状況と伺っている。その中で、旧城ヶ崎分校の取得については、なかなか難しい問題だと思うがいかがか。

委員：令和12年度に小中学校をまとめて1ヶ所となると、その上でどういう選択肢があるかという話だと思うが、色々な経済的事情で、予算の関係もあると思うが、どこか土地をしつらえて、もしくは用地があつてそこに建てるのか、県から土地を取得して改修するのか。改修は一般論だが、新築と違って全てがベストなものとはできないが、ある程度ベターなもので、小中学校の備えの受け皿として準備をするならば、旧城ヶ崎分校は自然も環境も良い場所である。周辺が伊豆急の分譲地内で、登下校や地元の住民の方々との色々な合意形成が必要になるが、十分選択肢の1つにはなりうると思う。

委員：対島地区だと、やはり旧城ヶ崎分校しかないと思う。ただ改修にかかる費用や予算など、決めていかなければならないことがたくさんあるとは思ふ。新たな土地に、新たな建物が良いのか、時間やお金のことを考えると良い方を選択するしかないと思う。どちらにしても本当に子供たちが、普通に今までどおり過ごしていただけるように、旧城ヶ崎分校に移るでも移らないでも、登下校の問題もだが、本当にまずは子供の安全や色々なことの最善を一番に考えて進めれば良いと思う。

委員：旧城ヶ崎分校に行ったことがないが、今日、保育園を見せていただいて、建てた当時はここが良いと思っていたが、今の時代や環境にそぐわなくなり、色々な話が出て、今回の視察になったと思う。果たして旧城ヶ崎分校が今どういう状態なのか、地盤はどうなのかなど考えていくと、申し訳ないが、見たことがないので適当な言葉がない。やはり何年後かのことを先に考えてやらないといけない。自分がもし母親で子供が何年後かにどこの小学校に入るとなったら、統合してどこかに変わる、こっちになるとなったらびっくりするだろう。

やはり何年後かのことを、これから子供が生まれる家族や結婚する夫婦などにも、安心して家庭を持って、子供を産んでも大丈夫な伊東市であると伝える方法を考えていかななくてはいけないと思う。

高橋教育長：教育委員の皆さんで現地を一回見に行った方が良いかもしれない。

委員：私も実際に、現地に行ったことがないので、今伺いながら、1回見させていただけたらいいと思っていた。今の対島地区の小中学校からだとは距離的には、やはり少し離れることになるのか。スクールバスとかという話になってくるのか。立地的な部分でどうなのか、この統合一貫校にする場合だったらこことはいうことは、調べていただく中で、具体的に問題になりそうな箇所や、メリットになってくる箇所の情報がいただけたらありがたいと思う。

高橋教育長：現場を1回確認していくこと、それから、新築というのをもし考えた場合どうか。例えば、あそこの土地を取得して、古いから解体して新しく建てるという考え方はどうか。予算のこともあるので、ご意見として伺うということであるが。

委員：最近学校に行くと、昔たくさんクラスがあった状態から比べると、空いている教室が多い気がする。旧城ヶ崎分校が何部屋あるなど、どういう造りかはわからないが、うまく活用ができれば今のままでもいいと思う。予算のこともわからないが、今の時代にあった、今の子供の数にあったスタイルであれば新しく建てても良いと思う。

委員：例えば今の話で土地を取得して、新しいものを建てるとなった時に、体育館はすごく綺麗で広くて大きいので今の建物で使えるのではないか。天井の事や、どこが朽ちているかは分からないが、新たに建てるのであれば、学校だけの機能としてではなく、その敷地に災害が起きた時のための防災拠点や公園など、複合的な視点まで考えた方がよいと思う。

委員：一般論だが、大規模に全面リフォームするなら建て替えた方がよいということになる。一長一短あって、改修と、新築では、もちろん新築で綺麗でピカピカの学校に行けたり、色々な使い勝手が今のニーズに合うなどあると思うが、結局コストと、どれだけの良い悪いがあるかとその天秤になるのでなんと

も言えない。もう1つ、旧城ヶ崎分校の周りは伊豆急の分譲地だと言ったが、首都圏にお住まいの方が、老後永住の終の棲家として静かな環境を求めてきている人が多く結構反対が出ることもあると思う。そのようなことから、旧城ヶ崎分校に新築しかり改修しかりだが、小中一貫校ができることを、早い段階での色々な調査・ヒアリングやそれに対しての対策、これは父兄の方々の子供がそこへ通う色々な意見と、ある意味同じぐらい重要で、両方からネガティブな運動でも出たら、それこそ大変な話になる。私はそれが結構気になる。

高橋教育長：貴重な意見をいただいたので、これについては、次回にも話題にするので、また自分の考えをまとめておいていただけたらと思う。

杉山次長兼教育総務課長：旧城ヶ崎分校の利点は、敷地だけで4万平米ぐらいある。例えば通学などを考えた場合、保護者の送迎や、想定されるスクールバスの受け入れスペースが取れる部分があることなどが大きな魅力だと思う。一方で、建物は42年ぐらい経っていると思う。そのまま活用するならば良いが、壊して建て直すとなると音が出ると思うので、住民の理解はやはり必要になると思う。色々な意味で、小中一貫校で統合になった時、特に対島地区は地域性がある。その意味でも一番良い場所になり得ると思う。高校の校舎なので小中学校としての適正はまだ十分な調査はできていない。

高橋教育長：最後になるが、宇佐美地区と対島地区の統合準備期間の重複、同じように進んでいく中で、何か意見があれば言っていただけたらと思う。

委員：教育問題懇話会の方で拝見していたら、一緒にといいながらも、市職員の人数の関係もあり、全く一緒のタイミングでは難しいと思う。それに対して、子供たちのことなのでスピード感を持って、なんとかして欲しいというやりとりを議事録の中で拝見した。限られている職員の数で、どういう風にするのかを、逆にどのような考えかを聞きたい。あとは、それに直接ではないが関わってくる部活動のことも、今、少しずつ移行が始まっているが、大きく動かしていくのに、市の中に部署が必要ではないかという話も現場の方から聞いた。そのところを少し手厚くして、こちらの統合準備と同時に、各学校も統廃合の中、リンクして部活のことも、そこに時間と人員を割いていただいて、向き合

うことは実情と方向性としてどうお考えかを最初に聞きたいと思う。

杉山次長兼教育総務課長：現状の体制ではかなり厳しい状態である。今回、伊東小学校も1つずつ取り組んできたが、その後、北中学校への進学者がかなり減ってしまった状況もあった。子供のことを考えると、そこは一生懸命取り組んでいかなくてはいけないと思っている。今の段階だとなんとも言えないが、やはりそこは子供ファーストで考えていかなくてはいけないと思っている。人員については働きかけしていきたいと思う。

高橋教育長：部活のことはまた別の機会にし、そういう意見があったことにとどめておきたいと思う。

委員：重複について、可能であればそうしていきたい。その受け皿が可能かどうかというところは、今後検討していただきたい。

高橋教育長：期間の重複については、この程度で押さえておきたいと思うが、よろしいか。

（異議なし）

高橋教育長：今の意見を踏まえて、4月23日（水）に開催される総合教育会議にて市長と協議を行う。総合教育会議の前に定例会があるので、今の出た意見をもう少しコンパクトにまとめて、それぞれ意見を言っていただく形になると思う。総合教育会議に臨む前に、ここだけはどうしても総合教育会議にいれたい部分があれば、自分の意見をまとめておいていただけたらと思う。

杉山次長兼教育総務課長：また次回の定例会と総合教育会議で協議いただくが、それまでに意見や考えなどがありましたら、その日でなくても構わないので、ご意見をいただければありがたいと思う。

高橋教育長：短時間だが、かなり深い議論ができたと思う。本当に多くの視点を持って発言していただいた。

委員：最後に2点ある。今回、事前に資料をいただいて、留意事項の中でポイントについて明示していただくことは、とてもありがたかった。1～2週間前に今日のことも踏まえて、ポイントをもう一度こういう風に考えておくようにと、いただけるのはありがたい。もう一つは大きいことになるので、どこまで

周知できるか分からないが、よくパブリックコメントで色々意見をいただいたりすることもあると思う。市民の中でも色々な方がいる。それが採用されるわけではないが、意見を言ったことが、市と関わっていることであり、逆にその中にすごく光る意見がもしかしたらあるかもしれない。オープンにしていく意味や、アイディアをもらえる意味でも何かの形で、伊豆新聞や市のホームページなど、色々なところでこのことについて、私達に聞いていただくような形で、良い場所はないか、いいアイディアはないか、何かの方法で窓口を、もし作っていただけると、こういうものをいただいた上で、今考えていると逆に言いやすいと思った。

杉山次長兼教育総務課長：最終的に今回、まず素案として作るが、それを市として提示する中で、それに対しての意見やこうした方がいいなど、何も意思がない中で始めても決まらないと思う。素案を出す中で、意見をいただいて、パブリックコメントや、説明会もやって、最終的にいただいた意見をまとめて決定する。それを8月ぐらいを目途にやりたいと思っている。それまでにパブリックコメントや、意見を聞く場を設けると思っている。

委員：もし可能であれば、そういう場が今後、ベースの意見を作った上で、皆さんからも聞いていくことを早い段階で言っていくと、聞かずにどんどん進んでいるのではなく、聞いていく上の素案を今作っていると、必ず聞くというところがまた安心に繋がっていくと思う。

高橋教育長：続いて、（2）その他において、「市議会3月定例会（大綱質疑・一般質問）の報告について」を議題とする。

（浜野教育部長から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：次に、「各課報告について」を議題とする。

杉山次長兼教育総務課長：特になし。

森田教育指導課長：生徒指導について報告する。小学校は、問題行動については、令和3年度以降減少は続いており、昨年度と比べると8件少ない254件

となっている。その中で、不健全非行については昨年度より増加をしている。万引きなどの内容になっている。中学校は、令和2年度以降徐々に増加の傾向もある。ネットトラブルについては、当然中学校で多く報告されているが、小学校の使用頻度は年々上がっている、未然防止の指導が必要であると考えている。次にいじめについて、昨年度の認知件数と比較すると、小学校では79件減少、中学校で18件減少となっており、全体的には令和3年度から減少傾向になっている。いじめをゼロにすることは、当然難しいわけだが、このいじめの定義というものが一般的にも広がってきて、なおかつばらつきが少なくなっていることから、正確な情報をつかみ深刻化させることがないように、早期対応を図っていきたいというように考えている。不登校の数については、小学校が4人減、中学校が17人増で、それぞれ103人、91人となっている。出現率は、小学校では0.13%増、中学校では1.44%増で、中学校の方が増加はしているが、全国平均と比較すると、小学校で2%程度出現率を上回っているということで、高いパーセンテージで推移をしている。不登校については、令和7年度からも子供の居場所作り、また教育の機会を奪わないという方向で力を入れて取り組んでいきたいと思っている。

鈴木幼児教育課長：第4回伊東市幼児施設連絡調整協議会について報告する。

（鈴木幼児教育課長から資料に沿って説明）

山下生涯学習課長：生涯学習課生涯学習センター中央会館及び伊東市図書館の開館および外壁改修工事について報告する。

（山下生涯学習課長から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：保育園のことだが、早急な移転をとのことだが、今候補地として挙げられているところがもしあれば、教えていただきたい。

鈴木幼児教育課長：幼稚園の園舎、小学校の校舎、協議会の委員の中に宇佐美小校長先生がいて1階の4つほどの空き教室を使うならば可能ではないかと話をいただいた。ただ駐車場はなく、それ以外にも午睡する部屋もないので、4つの教室だけではなかなか難しいと思う。幼稚園の園舎と学校の校舎をうまく

使えればと考えている。もう1つ、幼稚園も学校も津波の浸水エリアであることには変わらないので、果たしてそれで10分程度の避難の中で、園児たちの安全確保ができるかシミュレーションも同時にしていかなければいけない。仮園舎であっても安全確保をしていかなければいけないと考えている。

高橋教育長：保育園を見た感想を一言でいいのでよろしいか。

委員：耐震の部分は思うことがある。やはり今よりも海に近づくところに候補地があるこの1点が、4000以上の署名の元になっているなら、詳しく説明する必要もあると思う。もう1つは、土砂災害の網にかかっていない、津波浸水エリアから外れる場所として、宇佐美駅の上の一角が色付いてなかったが、そういうところしかないというところに対する対案を示していく必要があると思う。令和6年度末で終わらず、令和7年度以降も継続して審議する方向に向きが変わりつつあるので、どちらかという、仮園舎をまずは整えるところに重きを置くべきという気がすごくした。

委員：実際、色々説明していただいたら、とても危険で、災害もそうだが、衛生的なことや色々な面でも、早急に考えなければいけないと思った。やはり危険であって早く対応した方がいいことは、色々な方に伝えて協力してもらった方がいいと思った。ただ、反対している方々に津波浸水エリアから外れた場所でいいと言った時に、距離が遠い、道路が狭いなどの意見は絶対に出てくると思う。もしくは、もっと良い候補地があるのなら一緒に考えてもらえるなど、どなたかがいい場所を見つけてくれたなら、その候補地も考えていく。今の宮川分園だけではなく、そこも一つの案で考えようとなる。反対意見ばかりだと、言われた方はどんどん気持ち下がるので、前向きな意見も一緒にいただけるのであれば、考えてくださる方も前向きになると思う。ただあそこまでヒビがたくさんあって、幕をめくったら壁が剥がれている痕を見ると、早急に考えなくてはいけないと思った。

委員：通っている園児の方も保護者の方も、そして先生たちもその不安の中で過ごしているとなると、それは早急にとというのは意見のとおりだと思う。宮川分園も一緒に見させていただいたが、場所や色々な意味でかなりベターな選択

肢になると思った。今ここに候補地としては上がっていなかったが、しかも色々な団体に貸し出しているので、1年間依頼があつて許可をしますと言つた手前、どうなのか分からないが、実際に生命の問題で考えた時に、早急にということであれば、耐震性が大丈夫で、同じ宇佐美地区の中にあつて、そして広さや色々な部分がある程度整っているのであれば、ここも検討していただけたらと、今日実際に視察して思った。

高橋教育長：今後の日程について確認する。

事務局：4月の定例会については、4月23日（水）午後1時15分を予定している。5月の定例会については、5月21日（水）を予定とする。

高橋教育長：以上で、伊東市教育委員会3月定例会を終了する。

以上のとおり会議の次第を記録し、ここに署名する。

教育長職務代理 遠山 泰範

委 員 辻 恵

書 記 藤原 真紀